

△余滴▽

「知足経済学」の提唱

村田 光平

未来の世代に属する天然資源を食いつぶして繁栄を築き、半永久的に有害な廃棄物、膨大な債務という負の遺産を未来の世代に残す現代の生き方は、利己主義であり、倫理の根本に反していることを認識する必要があります。こうした倫理の欠如は、エンロン破綻、ワールドコム不正会計等々にも見られる通り、世界的規模で社会全体を覆うに至っております。倫理観の欠如は、責任感及び正義感の欠如をも招いており、この「三カン欠如」が地球と人類の将来を懸念させる大きな原因となっております。私はこれを世界病或いは日本病と呼んでおりますが、唯一の被爆国でありながら原発を推進し、破局に向いつつある日本は重病患者であると考えております。

このほど、「原子力と日本病」（朝日新聞社）を出版し、浜岡原発或いは六ヶ所村の再処理工場の事故がもたらす日本の破局が世界を壊す可能性を論じました。

このような現状を生んだ要因として未来の世代を無視するGDP経済学の責任は重大だと思われまふ。

GDP経済学は人間の本性に潜む貪欲を煽り、経済至上主義を生み、その結果、現代は倫理を失い利己主義に陥り未来の世代の犠牲性において繁栄を築くという過ちを犯しています。

このような認識の下に、私は倫理と連帯（南北間及び世代間）に基づき、環境と未来の世代の利益を尊重する新しい文明の創設を訴えて

います。新しい文明は物質中心から精神中心への転換を求めるものであり、GDP経済学にとって代る新しい経済学を必要とします。私はこれを「知足経済学」とすることを提唱するものであります。

「知足経済学」はGDP経済学が消費の極大化を目指すのに対し、欲望を減少させることにより幸福の極大化を目指すものです。これは幸福は富を欲望で割る数式により表現されるとする仏教の思想に通ずるものです。

「知足経済学」は計量化し得ない諸価値を再評価するものであります。これらの価値は家族、地域共同体、治安、環境、自然、正義、調和、美、健康等々枚挙にいとまがありません。

新しい文明の創設、そしてそのための「知足経済学」の導入を目指すうえで、対応が急がれる課題として特に意識変革、倫理の確立及び新しいエネルギー政策の導入の三つを指摘したいと思ひます。

まず必要な意識変革は環境を経済の一部と見なし、地球環境の破壊を行ってきた経済至上主義を改めて、経済を環境の一部と位置付けることです。それは自然との共生を説く仏教の教えに通ずる考えで、環境保全に欠かせないものです。

次に必要なのは倫理の確立です。私は主要宗教に共通する倫理規範と天の摂理の存在を信ずる市民社会の良心を地球倫理に統合することは可能だと信じております。

三つ目に文明の中心課題である新しいエネルギー政策のあり方ですが、水素と酸素を結合させる燃料電池は、物質文明の継続を志向する原発を不要とする究極のエネルギーとなり得まふしょう。

世界の現実理想から益々遠ざかるかに見えますが、「盛者必衰の理」等の歴史の教えが科学を超えてその存在を傍証するかに思われる「天の摂理」が、人類と地球の将来に今なお希望を持つことを可能にしていると信じます。

（本学教授）